



- ①カキツバタ
- ②クリンソウ
- ③図鑑を使って参加者に湿原植物を説明する高橋慎実行委員長（写真中央）
- ④センダイハギ
- ⑤オオハナウド

湿原植物の再生を目指して

湿原の花観察会（6月6日：ハサンベツ里山）

ハサンベツ里山計画実行委員会が、6月6日、ハサンベツ里山で行われた。同実行委員会と江別河川事務所が、湿原植物の再生や水質浄化などに役立つため、夕張川流域の湿原植物を試験栽培しており、観察会では、カキツバタやクリンソウなどの花を高橋慎実行委員長が解説し、参加者はそれぞれの花の見ごろや生育条件について、熱心に耳を傾けていた。委員長は「ミズゴケが繁殖する弱酸性の泥炭環境でなければ、湿原の植物は育たない。絶滅のおそれがある植物の種を採取、栽培すること、再生を図りたい」と話していました。

編集担当者の

ひよりん

▼先月の表紙で「最新式 ICT 技術を使った田植え」という表現がありました。ICT とは、インフォメーションアンドコミュニケーションテクノロジーの略語で「情報伝達技術」「情報通信技術」などと訳されます。あまり馴染みのない言葉ですね。人同士のコミュニケーションを円滑にするための通信技術なども ICT に含まれます。最近よくテレビ番組で「リモート出演」といって芸能人がパソコンを使って自宅から出演しているのを見かけますが、こういったこともまさに ICT を活用した通信技術といえます。とても便利な反面、コロナが収束して、リモート出演しなくてもよくなることを祈るばかりです。（小林）

▼ハサンベツ里山に行ったとき、早くもセミの鳴き声が聞こえました。ハルゼミの他にも鳴いているセミがいて、アブラゼミかと思ったのですが、調べると「エゾハルゼミ」でした。森の中で「ギギギギ」という鳴き声が聞こえたら、彼らの鳴き声かもしれません。（佐藤）

▼7月になり、マナビイも自然体験イベントの掲載が多くなってきました。自然の中での体験活動は健康に良いだけでなく、心のリフレッシュにも最適。さらに、子どもにとっても自然体験は、積極性、責任感、自然への関心、協調性が高まる効果もあるそうです。こんないいこと尽くしの体験イベントなら、参加するしかないですよ。（笑）最近では運動不足気味な私も、自然の中で思い切り体を動かしたいと思っています。（武岡）

〔発行〕栗山町 〔編集〕総務課／教育委員会
〒069-1512 北海道夕張郡栗山町松風3丁目252番地
☎0123-72-1111 FAX 0123-72-3179

〔印刷〕山東印刷株式会社
〔ホームページ〕<http://www.town.kuriyama.hokkaido.jp/>
〔E-メール〕kouhoubousaijouhou-g@town.kuriyama.hokkaido.jp

■次号「広報くりやま8月号」の原稿締切は7月15日(木)まで
■提出先：町総務課広報・防災・情報グループ ☎73-7501(直通)

2020.7 広報くりやま

32